

公募助成「腎不全病態研究助成」研究サマリー

研 究 名	血液透析患者における抗エリスロポエチン受容体抗体のエリスロポエチン反応性に及ぼす影響についての検討
所 属 機 関	金沢大学医薬保健研究域医学系 環境生態医学・公衆衛生学
氏 名	原 章規
<p>【目的】腎性貧血の治療には、赤血球造血刺激因子製剤 erythropoiesis stimulating agents (ESA) が使用される。ESA により慢性腎臓病 (CKD) 患者に対する輸血の必要性が激減し、患者 QOL が改善することも多く報告されてきた。一方、ESA に対する反応性が不良である患者が約 10% 程度存在するとされている。ESA 低反応性は予後が不良となりやすいことから、本病態を適切に診断して治療に当たることが重要となる。本研究では、維持血液透析患者を対象として抗エリスロポエチン (EPO) 受容体抗体を測定し、抗体と ESA 反応性との関連について検討した。</p> <p>【方法】金沢大学附属病院腎臓内科、みずほ病院およびもりやま越野医院で維持血液透析を行っている患者 208 例のうち、127 例から本研究に対する同意を書面にて得た。過去 1 ヶ月以内に赤血球輸血をされた 2 例と ESA 非使用の 17 例を除いた 108 例において、抗体と ESA 低反応性との関連を検討した。ESA resistance index (ERI) を ESA 投与量 (IU/週) / (体重 (kg) × Hb 値) で算出し、その四分位 75% 以上を ESA 低反応性と定義して評価を行った。</p> <p>【結果】検討した患者の内訳は、男性 74 名、女性 34 名、年齢の中央値は 68 歳 (58-76 歳)、透析歴の中央値は 58 か月 (27-111 か月) であった。抗 EPO 受容体抗体は 11 例で陽性となった。ERI 4 水準間において、ERI が大きくなるにつれて抗体陽性割合と CRP が高くなる一方、Hb 値とともに、血小板数、血清マグネシウム、血清クレアチニンおよびフェリチンが低値となった。多変量解析では、CRP とともに抗体陽性が ESA 低反応性に関連する独立した因子であった。</p> <p>【結論】維持血液透析患者における抗 EPO 受容体抗体は、ESA 低反応性と関連することが示唆された。</p>	